

# 2021 年度 FD 活動の取組み

## 1. オンライン授業に関する取組み

教務部長 新納 卓也

2021年度の教務FDでは、2020年度に感染症対策でおこなったオンライン授業の成果や課題を踏まえ、授業実施方法の整理や情報提供を行うとともに、教育の質向上のための取組みを進めた。

### ●オンライン授業についての情報提供

前年度において、各学期開始前に授業担当者から授業実施方法についての質問・相談がなされたこと、授業期間が始まると学生から「どの授業がどのように実施されているのか(どのようなツールが使われているのか)わからず、授業情報にアクセスできない」という問合せが多数寄せられたこと等をふまえ、2021年度は、授業担当者に対し、大学として提供しているオンライン授業のツールを明示した(3S<sup>※</sup>、大学公式 ZOOM 教室、Google クラスルーム)。そのうえで、学期開始時からスムーズに授業情報にアクセスできるよう、3S揭示のカテゴリーに「初回授業」を新設し、各学期の初回授業についての情報に限り、当該カテゴリーを使用して学生に周知するよう依頼した。

学生に対しては、初回授業に関する情報は、「初回授業」カテゴリーの揭示を確認するよう周知した。加えて、学生対象の3S揭示の表示が公開日順であることから、大学から伝えたい情報や、学生が確認したい情報が埋もれてしまうことが懸念されたため、授業受講に関する情報を集約したウェブサイト「授業受講ガイド」の2021年度版を設置し、大学ウェブサイトや3Sから接続できるようにした。

授業担当者への連絡にも3S揭示を使用しており、同様に情報が埋もれてしまう懸念があったため、授業運営に関する情報を集約したウェブサイト「武蔵大学授業運営ガイド」の2021年度版を設置し、3Sから接続できるようにした。情報を集約したウェブサイトは学生対象・授業担当者対象とも2020年度から作成していたが、情報システム課とも連携し、随時内容の見直しをおこなった。

### ●感染リスク低減と教育の質向上の両立

FD担当副学長が担当した「オンライン授業ご意見箱」等で寄せられた学生の意見や、FD委員会による学生対象の「オンライン授業に関するアンケート調査」の結果等から、感染リスクを低減しつつ教育の質を向上させるため、前年度のうち(2021年2月)に授業担当者に対し、FD委員長と教務部長の連名発信で、2021年度の授業運営に関する案内文書を配付し、次の内容を周知した。

- ・「オンライン授業」のタイプ分けとその代表的な実施例
- ・オンデマンド型で授業を実施する場合、資料提供のみでなく、音声または動画による解説を20～30分以上実施すること
- ・ライブ配信型で授業を実施する場合、学生のネットワーク環境等を勘案し、資料のアップロード等のフォローを実施すること
- ・課題を出すさいは、目的や標準所要時間を学生に伝えること
- ・課題へのフィードバック方法とタイミングを事前に学生に伝えること
- ・学生が自身の課題提出状況を確認できるようにすること(具体的なツールを提示した)

また、教室内の密度を下げ、学生と授業担当者の移動による感染リスクを低減するため、大規模講義科目は授業期間を通じて原則として6時限にオンデマンド方式で実施することとした。

2021年度においてはこうした案内や方針のもとでオンライン授業を実施したことにより、学生は自宅等から授業を受講することによって感染リスクを避けるとともに、オンデマンド授業においては必要に応

じて授業内容を繰り返し確認するという従来の授業形式では実現できなかったことが可能となった。

本年度はさらに、学生からの質問は3Sの「Q&A」を通じてなされること、それは教室での質問に変わるものであり対応いただきたいことを繰り返し授業担当者に周知した。また、2022年度に向けて、オンデマンド方式で授業を実施する場合、授業の終了後すみやかに「①設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導を行う」「②学生の意見交換の機会を確保する」ことが必要である旨、使用できるツールを示しつつ周知した。

※正式名称は Musashi Study Support System

## 2. FD 研修会

### コロナ禍のオンライン授業経験を次世代の大学づくりに活かす インストラクショナルデザイン入門

講師:鈴木克明(熊本大学教授システム学研究センター 教授)

司会:小森真樹(FD 委員、人文学部准教授)

日時:2021 年8月5日(木) 14:40~16:10

形式:ZOOM によるオンライン開催

#### 〈趣旨と概要〉

本年度の FD 研修会は、熊本大学教授システム学研究センター 教授の鈴木克明先生を講師としてお招きし、「コロナ禍のオンライン授業経験を次世代の大学づくりに活かす インストラクショナルデザイン入門」と題して、ZOOM によるオンライン形式で開催された。

コロナ禍となってから2年目にあたる本年度も前年度に引き続き、本学では引き続きオンライン授業が続いていた。それらを踏まえ、オンライン授業の展開について専門家から講義をしていただくという主旨である。講師は「教授システム学」という独自の枠組みで教授法について応用研究を進めてきた方であり、近年では e ラーニングに力を入れ、2006 年には日本で先駆的に熊本大学における完全オンラインでの大学院を開講した。情報技術という技術自体が展開を続ける分野の特性から蓄積が乏しくはあるが、そのなかで有数の蓄積がある研究者・実務家に話を伺う大変貴重な機会となった。

#### 〈内容〉

研修会の資料から、緊急時のオンライン授業実施以後にも今後の指針として活用すべき箇所を以下に抜粋した。

平時に戻るまでの遠隔授業のデザイン7か条

- 1.対面授業をやらなくても立派な通学制課程
- 2.無理はしない
- 3.同じ形ではなく同じ価値を追求する
- 4.順序を変える
- 5.大切なのは学生が学び続けること
- 6.非同期で学生の学習活動を支える
- 7.平時になっても使えるオンラインの要素を探す  
→平時が戻った後には ICT 教育利用の本格化を

#### 〈参加者からの声〉

参加者からの意見には、以下のようなものがみられた。

- ・後学期もオンライン講義の可能性があるかもしれないというタイミングでしたので、参考になるとともに、改めて「対面講義」の意義や今後の可能性／不可能性を考えるきっかけになりました。
- ・オンライン授業の良さを残したい、というのは共感した。本学でもともと契約・提供されていた Google 関連の諸サービス(Google Docs、Google Classroom)を今まで十分活用してこなかったのが悔やまれる。資料共有や学生へのフィードバック等で来年度以降も積極的に利用していきたい。
- ・今後もオンライン授業の可能性はあり、今回の企画は非常にタイムリーでよかったですと思います

以上のように、今後の授業設計を考えるきっかけとなったという意見が多く見られた。また、参加者のFD研修会受講後アンケート結果では、「非常に参考になった」と「参考になった」を合計すると83%を超えた。

#### 2021年度FD研修会受講者アンケート結果

本日の研修内容の感想をお聞かせください

非常に参考になった	30名	34.5%
参考になった	43名	49.4%
どちらとも言えない	12名	13.8%
参考にならなかった	2名	2.3%
まったく参考にならなかった	0名	0.0%
合計	87名	100%

(文責:小森真樹)

### 3. FD フォーラム「学生と共に考える授業改善」

全体司会:高橋徳行(FD 委員長、副学長)

討議司会:小森真樹(FD 委員、人文学部准教授)

日時:2021年12月23日(木)10:00~11:30

場所:ZOOMによるオンライン開催

テーマ:「ゼミの武蔵」を考える

～もし本気で三ヶ月以内に3つまで実現可能だとしたら、ゼミのどこを変えたいか?～

#### 〈趣旨と概要〉

武蔵大学 FD フォーラムは、テーマに基づき学生が授業改善に向けた提案を行い、それを受けて学生と教職員がともに授業改善に関して検討する企画である。FD 活動の中でも、特に学生を主体とするものであり、学生アンケート等では知ることができない生の声を受けて、教職員・学生が一体となり、課題について検討することを目的としている。本年度は、学生9名、教員 30 名、職員 13 名の計 52 名が参加して行われた。実施概要、学生からの提言(登壇テーマ)は以下の通りである。

#### 1. タイムスケジュール

時間	内容
10:00 [5分]	開会挨拶 (学長)
10:05 [25分]	学生からの提言 ※1グループ5分程度
10:35 [50分]	ディスカッション (進行:小森委員)
11:25 [5分]	まとめ (高橋委員長)
11:30	閉会

#### 2. 学生からの提言

No	学部学科	学年	氏名	テーマ
1	経済学部 経営学科	4	田中 創英 宋 潤気	学生同時のフィードバック、フィールドワークの支援、ゼミ間での交流
2	人文学部 日本・東アジア文化学科	4	春原 功貴	学生が主体的に参加できるゼミ
3	人文学部 英語英米文化学科	4	大塚 早紀 清水谷 耀一	ゼミの武蔵に望むこと
4	経済学部 経営学科	2	小田 美菜子 奥村 薫	オンラインでのゼミ・対面でのゼミ
5	社会学部 社会学科	4	染矢 克希	ゼミへの提言
6	人文学部 日本・東アジア文化学科	3	山下 大器	ゼミをより協同的に学べる場にするには

本年度の FD フォーラムは、FD 委員及び各学部の教員から集約した、複数のテーマを合わせて上記のテーマに決定した。また、武蔵大学が特色とする「ゼミの武蔵」を大枠のテーマとすることで、ゼミナールの実情把握と改善点の把握を意図したものであった。

テーマからもわかるように発表内容は多岐に渡ったが、大きく分けてゼミナールの「運営」「内容」「制度」という三点について様々な課題と改善点が提案された。

討議においても質疑や意見交換が活発に行われ、教職員からは、学部横断型課題解決プロジェクトや学生大会などが、今回学生から提案された改善点に応えるものではないかという発言もなされ、有益な情報交換の機会となった。また、発表者には学習意欲の高い学生が多かったが、授業外学習に比較的意欲がもちにくい学生について教員側から質問をする機会もあった。筆者からは、今回の学びがこの発表の場に終わらず、ゼミナール生や後輩らとも共有することでタテヨコに問題意識を共有してもらえたらとコメントした。以上の通り、短い時間ではあったが多角的に改善に向けた検討ができた発表と討議となったと感じている。高橋 FD 委員長からも、学生から多くなされた具体的な提案にはすぐに展開できるものも多く、長期的及び即時的に取り入れていきたいというコメントもいただき、本フォーラムをもとに改善へと向かうことが期待される。

スケジュールの関係で今回の実施は補講日に当たってしまったという問題があったが、今後もオンライン開催及び記録動画の配信という方法は、こうした実際的な課題を補う可能性があり、続けていく必要があると思われる。

(文責:小森真樹)

#### 4. 教員 FD 研修報告 (1)

##### <研修の概要>

名称:「令和3年度 FD 推進ワークショップ(新任専任教員向け)」

日程:2021年8月5日(木)10:30~16:30

開催方式:オンライン(Web 会議システム ZOOM)

主催:一般社団法人 日本私立大学連盟

参加者:笠松怜史(経済学部専任講師)

##### <研修の趣旨>

令和3年度「FD 推進ワークショップ(新任専任教員向け)」は、コロナ禍でのオンライン授業、及びポストコロナ時代に対面とオンラインを併用した授業運営が求められてきている背景に鑑み、オンライン開催で少人数グループ別のインタラクティブな FD プログラムが提供された。模擬授業を通じ、学生の学びや参画を促進する授業運営のアイデアなどについて、参加者が教員と学生それぞれの視点に立ちながら意見交換することを目的として開催された。

##### <主なプログラム>

- 趣旨説明
- グループ討論(各参加者の教育状況の共有と模擬授業)
- 全体発表

##### <本研修に挑むにあたり、抱いていた問題意識>

今回、私大連 FD 研修を受講するにあたって、私が問題意識として持っていた点は、「世間の新任教員の平均的授業準備・授業運営の度合い」と「自身(そして他の先生方)のオンライン授業が客観的に見てどういう風に映るのか」というものである。

私は2019年4月より国立大学2校にて経済学の基礎科目及び専門科目を担当してきた。その2校は世間でいうところの高学歴帯の大学であり、また入試で数学を使用した学生のみであることから、経済学の数理的教育が非常にやりやすかった。そのため、現所属大学に移籍するまでは「数学を前提にした経済学教育」という観点で授業スライドや課題を準備していたため、移籍する際には授業スライドの変更に多大な時間を費やした経験を持つ。また、私自身が文系大学で教育を受けたことがないため、私がいくら「数学をあまりつかわないように(学生に寄り添った)授業スライド・資料を作成」しようとしても、現実的にギャップが必ずあることは自覚していた。しかし、オンライン講義という媒体であるため、学生の声がリアルタイムでくみ取ることが難しく、この全学期の講義では、自分の授業動画・スライド・資料が客観的に見て、学生にとって教育上望ましいものなのかが分からなかった。

##### <討議の概要と得られた知見など>

今回、私大連 FD 研修を受講し、新任の先生方と授業スライドのどこを工夫しているか、学生の声をどう拾うかなどを相談できたことから、後学期以降自身の授業にも取り入れようと考えている。具体的には、小テストなどを実施する際にアンケート項目を追加するなどが提案された。

また、自身及び他の先生方の模擬授業を拝見する機会を今回いただけたことも非常に大きかった。オンライン講義のため、自身で授業動画を取ることはあったが、自分の声を改めて聞くのは正直耐え難いものがあり、毎回自分のテンションの赴くままに(対面授業でやっているような雰囲気)一発撮りをしていた。そのため、自身の授業が他者からどのように映るのかが正直検証できていなかった。また、他

の先生の授業を聞くことで、オンライン講義特有の自身の顔が映るカメラ画面部分によって、「教員がどこを向いているのか」が学生からは一目瞭然であるということが分かったのは収穫だった。具体的には、カメラ部分で教員が下を向いていることが学生にわかってしまうと、カンペを除いているのではないかなど、不信感を与えてしまうのではないかとということが理解できたのが1番の収穫であった。

以上

#### 4. 教員 FD 研修報告 (2)

##### <研修の概要>

名称:「令和3年度 FD 推進ワークショップ(新任専任教員向け)」

日程:2021年8月5日(木)10:30~16:30

開催方式:オンライン(Web 会議システム ZOOM)

主催:一般社団法人 日本私立大学連盟

参加者:小川俊明(経済学部准教授)

##### <研修の目的>

私立大学教育の発展のために、一般社団法人日本私立大学連盟が新任専任教員を対象とする研修を継続的に実施するもの(平成6年度から実施)。

##### <主なプログラム>

- 開会・オリエンテーション(全体説明)
- グループディスカッション  
—— ZOOM のブレイクアウトセッション機能を用い、各グループに分かれて実施。
- 模擬授業(グループ内ふりかえりを含む)
- 全体発表  
—— グループ内ふりかえりで確認・共有された点をグループごとに発表。
- 閉会・事務連絡

##### <研修の概要>

研修に先立って、立命館大学教育開発推進機構教授の沖裕貴先生による「全体説明」が行われた。その中で、今回のワークショップが、コロナ禍でのオンライン授業やポストコロナ時代に対面とオンラインを併用した授業運営が求められてきている背景に鑑みて、オンライン開催で少人数グループ別のインタラクティブなプログラムを提供するに至ったことや、模擬授業を通じ、学生の学びや参画を促進する授業運営のアイデアなどについて、参加者が教員と学生それぞれの視点に立ちながら意見交換することの重要性等が強調された。

「模擬授業」では、(ZOOM のブレイクアウトセッション機能を用いて)参加者5名(+運営委員<コーディネーター>1名)のグループ(計8グループ)を編成し、順番に授業を実施(1人につき授業15分)。教員役以外は学生役を担当。事前に提出した模擬授業ワークシートでは、15分の授業での到達目標や、授業案の概要について「導入」「展開」「まとめ」の3段階に分けて、(教員及び学生それぞれの目線における)授業の流れと時間配分を記載。教員役は、基本的には当該ワークシートに沿って模擬授業を実施(ワークシートは事前にグループ内で共有)。その後、グループ内でコメントを出し合いながら、課題・反省点や改善方法等を共有(意見交換10分)。

なお、模擬授業は ZOOM の録画機能を用いて録画し、後日参加者間で共有(収録 DVD を参加者限定で配付)。

担当者(小川)のグループ参加者の多くが共有した課題としては、「オンライン授業において、如何に学生に積極的かつ主体的に授業に参加してもらうか」というものであった。得られた知見やグループ内で共有されたコメント・改善方法としては、以下のとおり。

- ▶ ブレイクアウトセッション機能等を用いて、学生間で自由にディスカッションできる場を提供するのが効果的。

- ▶ オンライン授業であったとしても、なるべくアイコンタクトを取るようにしたり、不明箇所がないか問いかけたりと、常に学生が理解しているかを気にかけることが大切。
- ▶ 授業中、学生への問いかけを行う場合には、どのような質問を受けたとしても、教員はそれぞれの回答に対して正解との関係性など具体的なコメントを与えるのが望ましい。
  - また、学生の回答をその場でメモして共有することで、学生の参加意欲を高めることが期待できる。
- ▶ 教員自身が楽しそうに授業を行うことが、学生がその学問分野に対して楽しく興味深いイメージを持ってもらうきっかけになる。
  - この点に関連して、授業を受けている学生の多くが当該分野の研究者になる訳ではない（むしろ、当該分野とは無関係の職業に就く学生が多い）ことを踏まえると、どの程度学術的な内容を授業に織り込むべきか（むしろ、表面的だが楽しいイメージを持ってもらえる内容にすべきか）という悩みが多くの参加者間で共有された。

「模擬授業」の最後に、議論のまとめとして、「オンライン授業であっても、対面授業で培われたスキルやアイデアを活用できる」という点が共有された。

グループ別の模擬授業終了後、「全体発表」が行われた。そこでは、各グループの代表者の報告に基づき、グループで発見された気づきが共有された。その結果、全てのグループの気づきが参加者全員で共有されることとなった。

以 上